

## 第7回亀山市学校給食検討委員会議事録

日時・場所	平成27年8月28日（金） 午後1時00分～午後2時50分 亀山市役所 大会議室
出席委員	仲律子委員長、大川吉崇副委員長、遠藤博美委員、上田真梨子委員、本田実委員、松井美樹委員、北崎亜紀委員、櫻井恵美子委員、川戸磨美委員、吉崎直子委員、富田真左哉委員、大澤哲也委員、青木正彦委員、藤尾春樹委員、原田和伸委員
欠席委員	川口謙次委員、伊藤登美子委員、玉村仁子委員、東裕美委員、豊田達也委員
事務局	佐久間利夫教育次長、中原博学校教育室長、 学校教育室 原千里、小林真理子
事 項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 あいさつ</li> <li>2 前回議事録の確認について</li> <li>3 議事             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) アンケートの調査結果の最終考察について（報告）【資料1】</li> <li>(2) 中学校給食に関する協議について                 <ul style="list-style-type: none"> <li>【資料2】中学校給食に関する各委員の意見集約</li> <li>【資料3】実施方式によるメリット・デメリットについて（意見より集約）</li> <li>【資料4】中学校給食に関する各委員の意見について</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>4 その他</li> </ol>

### 議 事 内 容

【教育次長】 みなさんこんにちは。本日はお忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。本日は、公務のため川口委員、伊藤委員、玉村委員、東委員、豊田委員が欠席させていただいております。それでは、仲委員長進行をお願いします。

【委員長】 ただいまより、第7回亀山市学校給食検討委員会を開催します。今日は、みなさん言いたいことを言い合ってください、次のまとめの場に入っていきますのでよろしくお願いいたします。はじめに、亀山市審議会等の会議の傍聴に関する規程により傍聴の許可についておはかりします。現在、1名の傍聴を希望される方がみえます。

本日の会議において傍聴の許可をしたいと思いますが、これに異議ございませんか。

(異議なし)

異議なしとみなし、許可したいと思います。なお、途中傍聴を希望する方がみえましたら、再度皆様におはかりいたしたいと思います。

それでは、まず前回の議事録の確認をしたいと思います。事前に事務局より送付されましたが、ご意見等ありましたら発言願います。

(異議なし)

それでは、これを第6回議事録とし、教育委員会ホームページで公開いたします。

続いて、議事に入ります。前回の会議において、全中学生を対象に実施しました「昼食に関するアンケートの調査結果」の考察について最終協議しましたので、資料1のとおりといたしたいと思います。事務局、説明願います。

**【事務局】**

**【資料1】**を説明

**【委員長】**

みなさんご意見等ありましたら発言をお願いします。これを「アンケート調査結果の考察」としますが、よろしいですか。

(異議なし)

続きまして、前回の会議において、これまで提出された資料やアンケート結果、また皆様のご意見を参考にしながら、委員の皆さんにご自分の意見を自由にまとめていただきたいと事務局よりお願いしました。その自由記述用紙に書かれた内容を、よく似た意見別にグループに分けて事務局でまとめていただきましたので説明をお願いします。また、資料とは別途、参考資料として皆さんの意見そのままを提出しましたのでご確認いただけたらと思います。

また、皆さんの意見の中から、実施方式におけるメリット・デメリットについて挙げていただきましたので、事務局、お願いします。

**【事務局】**

**【資料2】【資料3】【資料4】**について、説明

**【委員長】**

みなさんから出された意見をわかりやすくまとめていただいたのが資料2、3、4です。事務局でまとめていただいたご意見ですので、皆様方の方で真意が入っていないとか、意見が抜けているとかいったものがあるかもしれません。その場合、この後皆様にお1人

ずつご意見をおうかがいさせていただきますので、その時にご意見が足りないところや抜けている所も含めましてご意見を頂ければと思っています。それから、皆様方から頂いたご意見の中にもう少しコストのことについて聞きたいという声もあったようです。前回の会議で建設費については話がありましたが、センター方式や自校方式などの方式によるコスト比較等について、担当部署の方から話をさせていただこうと思います。

【原田委員】

建設費に関しては、前回の会議で県内各市の運営状況についての資料を参考に説明させていただきましたが、それに加えて若干説明させていただきます。まず、給食センターを建てたらどうかということで、前回お話をさせていただいたんですが、建設費につきましては建物の構造や床面積、建物の設備の程度、例えばオール電化とか、更に太陽光発電を設置するとか、外溝工事、またどこに建てるかによっても大きく変わってきますので、想定できる範囲でのお話をさせていただきます。面積で言いますと、前回もお話させていただきましたが、桑名市で1300食程度の施設を参考に、亀山中学校、中部中学校2校に限ってのセンターと考えた場合、1000㎡程度と仮定し、鈴鹿市と津市の比較的新しい2000㎡台の施設から面積按分しますと5億7千万から6億6千万という数字が出てきます。面積で割りますと小さい面積の方が当然割高になりますので、これも当然目安という形になりますが、6億円程度という数字が出ます。これはセンターの場合ですが自校方式を考えた場合、前は自校方式の資料がなかったので県内で近年そういったところがないか探したところ、平成27年建設が町で1件ありました。そこは若干面積が小さくて300㎡程度です。関の給食センターが600食程度で464㎡ですので、これから500㎡と仮定して面積案分しますと、3億円程度となります。ただ、これはオール電化ですので、かなり割高なのかなという気がします。実際は2億5千万円から3億円といった幅があるかと思います。センターを新たに建設する場合の国の補助についてですが、これにつきましては年によって変動がありますが、平成27年度の補助基準で、鉄骨造りと考えた時に約1億2600万円の補助が考えられます。自校方式の場合は計算式が別になりますが、仮に亀山中学校、中部中学校にそれぞれ建てた場合には、合わせて7,270万程度となります。これは、年によって変動するので、平成27年に建てた場合はこの数字ですが、先に建てた場合や過去に建てた場合は違います。平成25年から何

千万と上がっていますので、あくまでも現在の基準です。ここから、建設をした場合に実際に負担がどうなるかということ想像しました時に、給食センターが6億少しということと、補助が1億2千万ということから考えますと、建設費用は約5億円となります。自校方式につきましては、同じように仮に2億5千万と仮定したときにこれが2校で5億円から7,270万円の補助を引くと4億9千万、これも約5億円というような数字は出てきます。ただ自校方式につきましては、現実問題として各学校に場所の確保が要りますので、亀山中学校、中部中学校共に建築場所の確保は簡単ではないかなと思います。仮に場所があったとしても、給食のダムウォーターを設置したり、あるいは給食室と校舎を接続したりといった費用が要るといった状況もあります。先ほど申し上げた給食センターの方も給食を各校に搬入しようとするすると、トラックの搬入口やそれを置いておく場所や備品も必要です。また、他の場所に建設した場合は用地費が必要ですし、外構の整備費用も要ります。用地も1000㎡の建屋に対し、どのくらいの用地があるかということ了他市の状況を見ますと、3倍程度、約3000㎡の広さの土地が必要かと考えます。そういったことを含みますと2、3億円プラスになってきます。条件によって何千万単位で大きく変動しますのであくまで参考として聞いていただきたいと思います。ランニングコストはどうかといったご意見もいただいておりますが、関の給食センターで1年間で約2,500万円程度かかっています。これは、人件費、施設管理費を入れたもので、これまでは大規模な修繕がありませんので、2,500万円程度で推移はしておりますが、20年、30年後には大規模な整備が必要になることも考えられます。給食センターは現在食数が600食弱で面積が464㎡ですので、自校方式ですと各校これだけのランニングコストはかかるかなと考えます。一方、センターを建てた場合、今の給食センターにプラスアルファの維持経費がかかるとは思います。正確には出せませんが3,000万円程度はかかると思います。コストとしては、以上のような状況が考えられます。長期的には自校方式と給食センターではランニングコストに差が出ます。いろいろな状況で違いが出ますので一概には言えませんけれども、コストだけを考えるとやはりセンター化が有利かなと思います。ただ、中学校2校の場合を話させていただきましたが、仮にセンターとなりますと対象は別の議論がでてくることでもありますので、中学校2校に絞った話として聞いていただければと思います。

【委員長】

はい、ありがとうございます。自校とセンターについてのコストの比較をさせていただきました。コスト比較について何かご質問やご意見等がありますか。建設費、敷地代、ランニングコスト、それから市の設備となりますと、そこで働いてくださる方の人件費もかかってくるのかと考えられます。おそらく費用のことはこの検討委員会でも重くのしかかってくることですので、たくさんかかるんだなということを頭の片隅に置いていただいて、この検討委員会では今後中学校給食をどうしていくのかということについて、ここから正念場でございますので、皆様方のご意見をお聞きしながらまとめていきたいと思っています。これまで完全給食というようなことをお話しをしてきたんですけれども、皆様方のご意見も後で詳しくお伺いさせていただきますが、自校方式なのか、センター方式なのかどちらを望むのかも明確にしていかなければならないというようなこともございます。それから、それぞれの方式によってもメリット、デメリットとかがあります。どれをとるにしても、期待される効果と課題というものも考えていかなければならないということもあります。もう1回議論をする前に皆さんと意見を共有したいと思います。皆さんからいただいた自由記述がまとめてありますが、もう一度お一人ずつご意見を言っていたきたいと思います。完全給食を望まれるのであれば、自校なのか、センターなのかということも交えながら、話をしていただければと思います。遠藤先生から順番にお願いしてよろしいですか。

【遠藤委員】

いろいろな資料をいただき自分なりに考えました結果、一番理想とするのは完全給食、それも自校方式がいろいろな内容、食育、作ってくれる側と食べる側の触れ合いや関係を考えますと、完全給食、自校方式をとるという結論に至りました。ただ、先ほどから出ております財政面のことにつきましては大変大きく、実現する可能性がほとんどない状態の中、その意見をまとめるということについては、自分の中で大変もどかしさを感じますので、少しでも実現可能と考えていくなればと自分の中で考えてみました。自分としては妥協案と申しますか財政面から考えまして、例えば、今川崎小学校の改築が進んでおりました、これについては、設計等が着々と進んでおりますので、ここでどうこうとは言えないと思うので、校区内の小学校や、中学校が改築する時には、自校方式であったり校区の小学校の調理室の作れる範囲を広くすることで中学校にも給食を運べるようにするとか、センターのような自校方式になってしまいますが、そ

のような方法がとれるのではないかと自分の中で考えてみました。ただ、やはり素人考えですので、それが可能かどうかは責任を持っている意見ではありません。いろいろ考えまして結論としては、私の中では現状デリバリーも温かいものは温かく、冷たいものは冷たくということを考えてもらっていますし、食育に関しましては給食じゃなければできないわけではないので、いろいろな工夫等で考えてお弁当の日でありますとか、いろいろなことを考えながらしていくことは可能だと思いました。デリバリーをよりよいものとして、改善をしていくことにつきましては、早速保護者さんへの試食会を考えていただきましたので、これをさらに、中学校へ進学していく6年生の児童の試食会に広げるなどそんな機会があったらよいと考えています。

【上田委員】

私も中学校給食を考えるにあたってすごく悩んだのですが、私も遠藤委員と同じ意見で、やはり理想は完全給食というのは変わりません。ですが、いろいろな資料を用意していただいたり、いろいろな意見を聞かせていただいて最終の結論としては、私も現状維持という意見に至っています。デリバリー方式とお弁当、センター方式と3種類ありますが、やはりその中でお弁当を持たせたいと思っている保護者も少なからずみえるということで、食育は保護者の方の協力も得ないと進んでいけないということもあり、親子のつながりや感謝の気持ちを持つ、いいきっかけになるのもお弁当のいいところだと思います。デリバリー方式は、市の管理栄養士によって栄養管理されていて、安心安全で温かいものは温かく、冷たいものは冷たく提供されていて、いろいろな工夫もされていて、設備も充実しているように感じました。また、保護者の方の負担であったり、給食時間の確保、市の財政面などを考えると現在の方式が保護者の方にとっても子どもたちにとってもよいのかなと思います。食育の面ですが、それぞれよさがあるって、完全給食だと小学校のように生きた教材として全員の共通のツールになりますので、食育の介入もしやすく子どもたちにも効果的だと考えています。お弁当やデリバリーがだめというのではなくて、食育を通じて自分でお弁当を作る機会が増えたり、デリバリーでどちらのメニューがいいかなと考える機会にもなると思います。食育をする私の立場から申しますと、形が変わったとしても食育をするということに変わりはないと考えました。

【本田委員】

前の方もおっしゃられたように、市のあるべき姿として最善をいうのであれば完全給食を全校で実施することは言うまでもないということなのですが、この会がもう少し早い時期にとか、どういう段階でという意見もありましたが、今の段階で言うと最善ではあるんですけども、直ちに改善しなければならない不平等があるということではないだろうというのが私なりの結論です。今すぐどちらかにしなければならない、市として緊急性があり必ず全校でしていかないといけないものなのかというと、緊急性としては低いのかなというような感覚を持っています。不平等感については、一定の担保がなされているかと思えます。しかし、これはあくまでも経過措置というか、いったんの方法だということを知っていますので、やはり、未来もこのままいくのかと考えると、いずれあるべき姿としての方式も考えていかないといけないと思えます。ですので、今回委員会で意見をまとめていくとなると、今のところ現状維持。合併10年もたつて、この方法でいつまで続けるのかということもあると思うんですけども、財政状況を見るとこのままでもいいのかなとも思えます。このように議論していく場であったり、例えば今後総合計画も次の10年ということもあると思えますので、そこにどのように書かれてくるのかということもあると思えますが、どこか目標を決めてするのか、この議論は終わりでデリバリーにするのか、未来はこのままだとはいかないのかなというのが今のところの感じですが。それと食育について上田委員がおっしゃいましたが、いろんな方式での取組があったり、そこにメリットがあったり、やりやすさや効果があったりと思えますが、どちらがより効果的だからこちらにまとめた方がよいというのはならないような気がします。その方式に合わせて、協力してやっていくことであるので、食育に関していろんなメリットもありましたが、それが統一する理由にはならないと思えます。どちらの方式であっても食育はその場に応じていろんなことを活用しながら進めていくものであると思うので、それが決定づけられるものにはならないと思えます。

【松井委員】

完全給食は確かにすばらしいものですし、いろいろな意見がかわされるなかでとても魅力的だと思ったんですが、アンケートの結果をいろいろ見させていただいたところ、今の現状で大体の生徒や保護者が今の現状にあまり不満をいっていないということもありますし、費用のこともありますので、私としては今の段階ではこのままの現状でよいのではないかと考えています。

ただ、今でも残食がかなりあるといった資料もありましたので、これを適宜改善していく工夫はあるかと思いました。必ずしもこのままの状態が最善とは思えませんし、確かにお弁当より完全給食の方が栄養面もいいですし、望む声もありますので、この先中学校の改修や建て替えがあると思しますので、その時に計画の中でセンターや自校方式の給食室を作るということを計画の中にいれていただくというのは可能ではないかと思いました。ですが、今の段階では、3校それぞれの方式があってもいいのではないかと思います。食の選択、食育の面を考えますと、デリバリーの給食を生徒自身が知る機会があってもいいと思しますので、デリバリーの給食を全校生徒が1日で体験するというのは難しいと思うんですけども、先ほど遠藤委員がおっしゃっていたように、中学校へ上がる前の6年生での体験ということでしたら食数も少なくなるのでいいのではないかと思います。

【北崎委員】

記述には書かなかったんですが、私が考えたのは旧亀山市内の自校方式をすべてやめて、一つのセンター方式にしてはどうだろうかと考えました。そうすれば人件費も浮きますし、いろんな面で統一されるのではないかと考えましたが、旧亀山市内の今まで築いてきた自校方式で子どもたちが食育を学んだり、子どもたちのアレルギー対応に関するメリットがそれでは消えてしまうなど考えて、すべての自校方式をやめてセンター方式というのは、いろんな課題があって、経済的な面だけを優先するのはどうかと思って記述をやめました。自校方式に関しては、亀山中学校と中部中学校の敷地内へ建てるのは非常に難しいのではないかなと考えたので、記述はしていません。私も現状維持を考えてこのような記述にさせていただきました。そして、関校区に関しては、大きな問題はないと考えましたので、亀中と中部校区のアンケートをもとに満足している方としていない方が半々であると考えましたので、どういったことが満足されていないのかというところで、おいしくないという意見が多かったのですが、それは試食したらおいしかったので、みなさんがおっしゃっているようにいろんな機会に試食していただいて、いろんな課題を検討して前に進めていけばいいのではないかと考えています。次に満足していない方の回答が多かったのが、デリバリーは地元食材をあまり使っていないという意見でしたので、それは教育委員会の方や地元農家の方、デリバリー業者の方と話し合って改善ができるのではないかと考えました。そして、残食に関しては食

育の推進が一番であろうと考えています。それは、亀山市内の小学校すべて自校方式やセンター方式をもとに、給食を通して様々な工夫で食を学び、そして中学校にバトンしていく、中学生になったらいろんな活動が可能になりますので、自分でお弁当を作ることによって、家庭において原点に戻って食育を考えるというのは中学生や家庭教育において意義があるかと思います。ですので、私も現状維持をして食育を工夫しながら、デリバリーやお弁当の2つの選択をする中で、特にデリバリーにおいては、その時々課題をみなさんと検討しながら進めていく必要があるのかなと思います。最後にですが、PTAの会長さんは地区集会やいろんな場で保護者と触れ合う機会がありますので、もちろん一般の方も入っていただいて議論していただくのは大切だと思いますが、私自身単Pの会長をさせていただいて、いろんな方と話す機会がありますので、PTAの会長さんも委員に入っていたら議論がもっと深くなると思いましたので、その意見を記述させていただきました。

【櫻井委員】

私は、完全給食で自校方式が希望です。すごく難しいことだというのはわかっていますがそれが一番いいと思っています。もし、自校方式がダメなのであれば、遠藤委員がおっしゃられたように、小学校や中学校の分を一緒に作る施設があったりだとか、センターを作ることを検討していくのも一つだと思います。やはり、作っていただいている方の顔が見える、食育の面を考えると、自校方式が一番よいのではないかと思います。

【川戸委員】

完全給食が公平であるし、自校方式が理想であると思うんですが、今回の生徒のアンケート結果を見てお弁当を望んでいる子が多いというのが私個人としてはうれしかったのと、デリバリー給食においても約8割の生徒が自分でメニューを選択しているという結果も出ているので、このままでもいいのではないかと思います。それよりもまず、現実問題として、一番最初の委員会の時に驚いたんですが、低年齢の児童でアレルギーの子がすごく多いので、アレルギー対策やそれに関わる職員の確保の方が大切なのかなと思いました。これは中学校へ行って完全給食になったら同じようなことが起こる問題だとは思いますが、それも含めてとりあえず小学校の対策の方に目を向けていくのが先なのではないかなと思います。

【吉崎委員】

私は完全給食の自校方式を希望しています。実際に財政的には難

しいと思いますが、小学校であたり前になっている完全給食が同じ学童期として位置づけられている中学生になるとあたり前でないという状況があるというのが、やはり問題になるのではないかと感じました。給食とはちょっと離れますが、最近地域とのつながりが薄れかけてきて、隣の人がどんな人かわからない、あそこの家にどんな人が住んでいるのかわからないとか、そういった感じの地域の関わりになっていて、そういったところから見直していった方がいいんじゃないかと自分が住んでいてそう思います。つながるきっかけというのは、人が生きていくうえで大切な食べることやと思うんです。食べることを大事にしながらみんながつながって、健康の維持にもつながりますし、生涯向きあっているといけない共通のつながりでもありますので、そこを大切にしながら亀山市全体が支えあっていくような地域作りにつながってほしいなど、今の現状を考えるとと思います。お母さん世代も食を大事にしなければいけないことは分かっているんですけども、実際どう作っているのか分からない、毎日の献立を考えるのが苦痛だというお母さんも実際にみえて、自分もその中の一人だったんです。なぜそれができないかということ、自分が育ってきた環境の中で大事にされてきたことが学力であり、学校へ行くと勉強はしないといけないけれども、家のことや食事のことは結構おろそかになってしまっていて、そういう環境で育ってきたように思います。実際に親世代が冷凍のおかずをチンするとか、ご飯を炊飯機でスイッチをピッと押して炊くだけとか、いかに楽しようかという状況です。食事を素材から楽しく作ろうという状況ではなくて、作らなくてはいけないから、何かしら用意するという食事がすごく多いように思います。そういった、食のつながりや流れを経験する場所も時間も、学童期の中になかったというのが大きな原因になってきたのではないかと思います。親世代を変えるのはなかなか難しいので、今育ってきている子どもたちが地域と食を通じてつながっていくという環境を整えてあげることによって、ずっとつながりもできますし、年配の方たちも子どもたちのために食を通じて積極的に関わってあげようという一連のつながりができてくると思うんですよ。そういった面で、地元の方たちと食材を考えていただいたりとか、給食の献立ができた段階でこういった食材を育ててくださいと依頼をして、その時期までにこれだけの野菜がそろいましたという形を求めていただいたりとか、いろいろな手が考えられるのではないかと思います。そういったつながりを大切にしながら、地域全体で食を通じて関わっていける亀

山市になっていただけたらと思いますので、そういった意味でも自校方式で完全給食にさせていただけたらと思います。

【委員長】

ありがとうございました。本日ご欠席をされている委員の方の意見もあります。皆様方の意見も参考にお渡ししてありますので、皆さん前もって目を通されているかと思いますが、事務局で読んでもらいますか。では事務局お願いいたします。

【事務局】

それでは朗読します。《欠席者意見代読》

「亀山の（食）文化」という言葉にも大変納得しましたが、亀山市は子どもたちのために、様々なことにおいて工夫・改善を手厚くして頂いていると感じます。市内に3中学校あって、1つの中学校のみが完全給食で他の2校がデリバリー給食だというのは行政サービスの1つとして考えると公平または平等でないという意見もありましたが、それを理由にして1つに統一する必要性はあまり感じません。前回の会議でも意見として言わせていただきましたが、デリバリー給食についても提供される側、子どもたち側に立って開始された頃より味も中身も提供のされ方もすいぶん改善されてきました。現状の中で、いかにより良くしていくかが大切なことなのではないかと思えます。財政の面でも新たに給食センターを設け、自校の調理室を増設してといくらでも使えるわけでもありません。亀山市の場合、デリバリー給食もきちんと市の管理栄養士さんが栄養価の面も考えてくださっているので問題ないと思えます。今回、デリバリー給食の試食会も実施され、やはり実際に口にして「美味しい」「安全だ」と感じることで、デリバリー給食に対してのイメージも変わってくるのではないのでしょうか。私は、現状のまま、今もそうですが、改善すべきところは見直し、改善を図りながらという姿勢でよいのではないかと考えます。というご意見をいただきました。

続いて、別の委員からは、前回は行われました会議に際しましては、学校給食（昼食）に関するアンケート調査結果と考察や県内の中学校給食実施状況、また各市の給食センター運営状況や全国の学校給食実施率などの情報を提示していただき、更に当市の中学校における昼食時間や残菜調査結果、そして生徒からの実際の意見もまとめて記載していただき大変分りやすく有難かったです。当市の財政状況についても理解することが出来ました。これまでの資料等や今まで検討会議での皆様のご意見をお聞きしまして私なりの思いとしましては、今の現状を維持しつつ変えられる範囲のみ改善することが

精一杯ではないでしょうか。当初は中学給食完全実施も必要だと思っていました。働く母親が増え、親に代わって栄養バランスを考えられた給食をどの子ども等しく摂取することが大切なのは、身心の成長が著しくまた義務教育期間だからこそだと思います。その思いは今も持ち続けておりますが、財政状況を考えると中学校給食完全実施はかなり厳しいと思われまます。また、お弁当持参やデリバリー給食の生徒は残菜も少ないようです。給食だとどうしても残菜が目立ち無駄やもったいなさに繋がります。その部分を改善するためには、小学校給食から見直す必要もあるのではないのでしょうか。小学校では担任によっては残菜が結構あるクラスもあると聞きます。以上のような改善策を講じつつ少しずつ現状改善を定着させ市の財政状況を見極めながら中学校完全給食実施やセンター方式等、一步一步進めていただくことが妥当だと思っております。

続いて、別の委員の意見です。亀山市公立保育園は、自園方式で給食を行っていますが、アスレ以外の園ではご飯のみ金曜日以外、毎日家庭から持参しています。合併後は亀山市と揃え、ご飯持参を提案しましたが、保護者からの強い反対により、関幼稚園を含んだ関アスレは、現在も炊いたご飯を3歳児以上のみ購入しています。現在エピペン持参のアレルギー疾患を持っている園児が2名在籍していますが、その一人が、午後になってアレルギー反応が顔に出てきたことで、アナフィラキシーショックを心配したことがありました。誤食でもなく原因が分からないことに余計心配しましたが、その時は、他の幼稚園のように弁当であれば、生命の心配は除外される、正直思ったことがありました。中学校給食は、センターやデリバリー、弁当でもそれぞれのメリットやデメリットは、当然あるかと思えます。また、保護者サイトからは、センター式の給食になれば、喜ばれることは当然だと思います。安心、安全、栄養バランスの提供は、もちろんのこと、一番は「楽」になり、働く親にとって助かることだと思います。しかし、親より子どもの意見を考えたいと思えますが、子どもたちは無いものに憧れを持つ姿もあるかと思えます。食育という視点で、親は子どもの笑顔を思い浮かべ弁当を作り、給食調理員も同様に、思い出に残るように心を込めて給食を作っていると思えます。亀山市の中学校給食は、デリバリー方式による給食の注文と、家庭からの弁当持参の選択性となって、デリバリーでは、Aメニュー・Bメニューと選択もでき配慮していただいていることも多いと思っておりますので、当面は現在のままで良いのではないかと思います。また、児童の経験や食育の一環として鈴鹿市

のように「自分で作るお弁当の日」を設けたり、反対に給食を経験することもよいのではと思います。アスレ職場体験では、「お弁当を自分でつくる日」を設けましたが、結構頑張っつつくってきたことに驚きと意欲を感じ、よい経験になったと思いました。亀山市は、財政難であり市の貯金を崩して賄っていることも聞いています。3年後ぐらいには、市の貯金も無くなるようですが、そんな中、センター建設を提案することは困難だと思えます。また、給食関係で思うことは、ランニングコストが非常に多くかかります。消耗品や燃料費はもとより、修繕費にかかるコストの額は何より多く維持費が大変だと思えます。しかしながら、家庭で抱える経済力の格差や、ネグレクト、家庭教育の低下などの問題も多くなっている昨今、中学校給食センターの役割は将来的には必要になるのではないのでしょうか。今後、中学校給食センター化については、よくもんだ話し合いのもと、計画的に進めていくことも大切かと考えます。また、将来の亀山市を担う子どものためには、教育費は削らずに進めていって欲しいです。

続いての意見です。本年度より検討委員会に出させていただき、そこでの話し合いを振り返ると、中学校給食のあり方について、以下の視点からの問題提起がなされていたと思えます。1番、学校給食の形、2番、財政面、3番、食育の観点です。1番については、給食、弁当、デリバリーをそれぞれにメリットデメリットがあり、どれか一つにするのではなく、保護者と生徒が選択できる現行の形を維持することがよいと考えます。2番については、例年、学校やPTAが市にお願いしている施設、設備、人的なものも含めますが、これに関わる要望事項、項目は多くありますが、厳しい財政の中で実現されるものは年々少なくなっているように思います。学校給食に関わる要望も、そのような学校教育に関わる様々な要望とのバランスを考慮し、多面的な視点からの位置づけが必要かと思えます。3番目に教育活動の中で食育は重要な柱ではありますが、現実には、教科の枠を越えて設定される領域学習は他にも数多くあります。学校は、多様な領域と領域ごとの推進要請に応じつつも、それらの領域学習が無理なく推進されるよう、学校の状況や生徒の実態を見ながら、その意味づけや位置づけを行い、その過程で必要な選択や精選を行わざるを得ません。食育においても同様であると考えます。以上が本日欠席委員の意見です。

【委員長】

ありがとうございました。最後に副委員長お願いします。

【副委員長】

私にこの給食検討委員会の委員になってほしいと依頼があった時に、亀山市はお金があるんだという私の印象でした。これが10年前なら分かりますが、今の時代の流れの中で出てきたのでそのような感想を持ちました。そして、どうするんだろう、色々な選択の中で選んでいくのだろうと思っていましたが、色々な背景の中で、この検討委員会が立ち上がったのだと委員会を通して分かりました。今多くの委員が申しましたが、どのような方式であってもアレルギー対策は本当に大切だと思っています。また、全国の完全給食の実施状況などを重きにおいてみえる方もいます。それはその意見でいいのですが、学力の45位というのと全く違うだろうと思っています。パーセントにこだわる必要はないのではないかと。また、遠藤委員が以前、就学援助をうけている生徒はどうなのと言われたのが頭に残っていますが、分からないようにどのようにカバーしていくのがテーマの中に残るかなと思っています。今から5年くらいは現状維持で、その先でもう一度委員会を開いてたたき直すということではよいのではないかと思います。三重県は何でも統一という風習がありますが、一緒がいいという時代でもないと思います。文芸や美術関係はととも亀山市はいい。また文化という言い方をしますが、早い段階からその流れが亀山市はあるように思います。小学校、中学校ですべきことはたくさんあります。例えば、この部屋をきれいにして、ここで食事して、食育もする。それなら、安い方法でできるのではないかと。私は、食の民俗を40年やってきました。食生活について、三重県は全く手をつけてないところかなと感じます。学校の先生が一番困っているのでは。今の子ども達に仕掛けないと。自然も食から学べるし、先祖の誰がぬけてもいけないということも食を通じてできる。例えば、余談ですが、伊勢神宮は外宮からお参りする人が多い。食の五穀豊穡の神なんです。この1年食べさせていただきましたという報告に行き、それから内宮へ行く。そういう県なんですね。もっと小学校や中学校の子ども達の教育のための環境づくりでなければいけないことはたくさんある。そして先生方も使いやすいような環境。今多額のお金を費やすよりも、今大切にしていかなければならないものを大事にして、改善も図りながら5年くらい進めていく。そして、その先、再度検討委員会を開いて決断すればよいのではと思います。私がこの会議に参加させていただいて思うことは、形だけの会議が多い中、私も自分の言いたいことを話させていただきましたし、委員のみなさんにもたくさん発言していただき勉強になりました。結果は、統一する必要はなく、今の

方式を改善も図りながらも大切にしていこうという思いになりました。また、そのためには、他の人の意見にもありましたが、生徒全員が3つの方式を体験することによって子ども達を含めてみんなが考えるというのもいいかなと思いました。

**【委員長】**           ありがとうございます。市の職員さんはどうですか。

**【富田委員】**       感じたことは、今の現状はアンケートの結果からも分かるように、生徒はお弁当を望んでおり、デリバリーも食べてみるとまた食べたという結果であり、今の方式で問題はないのではと思いました。また、財政的からみても、何億というお金をかけて今することは現実的ではないのかなと思いました。

**【大澤委員】**       前回、市の財政が厳しいという話をさせていただき、皆さんにも浸透してしまったかなと感じますが、あくまで私見ですが、センター方式でできればと。調理や搬送などは民間の力を借りながらコスト的な面でも中長期的にみても安いのではないかと考えられます。また、例えば皆さんが家を建てる際や亀山市に転入される場合、学校はどこかなとか距離はどれくらいあるかなとか、駅までの距離とか子育て支援や教育の充実など総合的に考えられるかと思いますが、中学校給食が弁当かデリバリーか完全給食であるかということ、完全給食だから家を建てるのは関にしようとか鈴鹿市にしようかなるのかな、優先順位としてどうなのかなと若干感じました。

**【青木委員】**       私は行政という立場というよりは、客観的にこのアンケート調査結果を見て思いますが、選択できるニーズが高かったということは、小学生ではなく中学生の給食を考えた時に選択できるということが大切ではないのかと思いました。

**【藤尾委員】**       私は市職員の代表としてこの会議に参加させていただいているので、現場の意見を含めてとなりますが、各々の給食の方式にメリットとデメリットがあり、優劣はつけがたいと思います。しかし、小学校の給食の現場ではアレルギー対応の困難さ、作る側の負担がかなりかかってきています。その中で、さらにセンター化するのはどうなのかと。アレルギー対応を重視して考えていくと、小学校の自校方式を維持する中で、中学校の選択式はいいのではと思います。

【原田委員】

私は先ほども説明しましたとおり、給食施設の関係を担当していて事務局にも近い立場ですので、実施方式については控えますが、確かに自校方式は何がいいかは別として非常にハードルが高くなる。しかし、単に自校方式、センター方式の比較では難しいかなと思います。センター方式となると中学校2校だけではないという考えも出てくるかなと思います。

【委員長】

ありがとうございました。これで、委員の皆さんの意見を聞きました。委員の意見をまとめますと、共通することは、理想としては完全給食であると。これは合意をしていただけるとは思いません。完全給食には自校方式とセンター方式がありますが、財政的なことやコストを脇に置いておくとするならば、作り手の顔が見える、食育もしやすいので自校方式が最も理想だと皆さん思ってみえると思います。しかし、財政的なこととか、アンケート調査結果やアレルギー対応、また、お弁当を作ってあげたいという保護者もみえるかもしれませんし、実際お弁当がいいという生徒は多かったですし、デリバリー給食もまずいという固定観念もあるかもしれない。でもこのデリバリー給食も管理栄養士の献立のもと、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく提供しており、この5年間も改善を続けているという実績も入れると、皆さんのご意見は当面は現状維持かなと思われるのですが、どうでしょうか。いや、やっぱり完全給食よと思われる方はみえますか。思い残すことのないよう、この場で発言していただきたいと思います。現状維持の声が多いので、ぜひ発言していただきたいと思います。

【吉崎委員】

先日、デリバリーの現状を話し合っていることを他のお母さん方に話してみました。何年か前に、デリバリーが決定される時に多数の署名が集まったとお聞きしているのですが、それが結局どこへ行ってしまったのかも分からないとも聞きました。保護者はやはり完全給食を望んでおまして、子どもが給食もなくデリバリーも嫌だからお弁当を作ってほしいというので弁当を作らないといけないという声しか聞いたことしかありません。自分達が食の教育をされていないので、子どもの食を大事にしたいからという思いでお弁当を作られている保護者さんは亀山市で一体どれくらいいるのかな、指で数えられるくらいしかいないと感じます。私は、食は真剣に考えていかなければならない最大の課題だと思っておまして、今までの問題は食から発生しているのではないかと考えているんです。私個

人としては、本当はお弁当がいいです。本当はお弁当がいいんです。みんながお弁当を通じて子どもに愛情を届けてほしいです。でも、それまで考えている親が育っていないと思うんです。そうすると、親も育てていかないといけませんが、変えられるのは未来を担う子ども達であり、子どものうちから自然の恵みをいっぱい受けた食材に触れたり、それが育つ様子を間近で感じたり、また、それを実際に調理して食べる時まで体験するという事で、自分達が親になった時に子どもにつないでいけますし、さらにその上の年代になった時には知恵として次の世代に循環できると思うんです。年を重ねた時に、生きてきた分の知恵をいただいて、そういったつながりを作っていけば変わるような気がします。だから、学童期から食の大切さを給食を通じて教育していただけたらありがたいので、完全給食を望みます。今の現状を変えるのは反対もあって難しいと思いますが、関幼稚園の方で、合併して旧亀山市の幼稚園のようにごはんだけ持ってきてくださいということにも強い反対があったという話もありましたが、給食が当たり前になってきたのに給食でないということにお母さん世代はなぜと思っています。それでも行政が変わらないので仕方がないと聞いているので、その世代の一員として発言しました。本当に食を大切にしてほしいと思います。

【櫻井委員】

前回の検討委員会においてデリバリーを導入した際に、とりあえずデリバリーであったことについて、とりあえずはいつまでだろうと思います。今変えなければいつなんだろうという思いでこの委員会に参加をさせていただいたので、ぜひ変えたいです。目標を何年と定めるのは難しいかもしれませんが、方向をきちんと決めておかないとまだまだ先の子どもたちもいるので、今変えていきたいなと思います。私の子どもですが、下の子が小学校1年生なのでその子が中学生になる頃には給食になってほしいと思います。アンケートも中学生の上の子が幼稚園の時に、中学校も給食がいいと書いたんです。それが今このような状態なのでがっかりしていて、せっかく意見が言える検討委員会に参加させていただいたので、私はぜひ完全給食をお願いしたいです。

【委員長】

5年前は、とりあえずデリバリー導入ということで、市の教育委員会は経過措置であると公言されてきた事実があると。お弁当を持ってこられない家庭もあるので、デリバリーが取り入れられた。それから、改善を繰り返して現在に至っているという経緯があるとい

うことです。アンケートも拝見して、旧亀山市と旧関町の親としては、どうして違うんだらうと、行政サービスとして不平等だという思いもあると思います。しかし、子どもの立場からするとお弁当がいいという意見が多いということもあります。亀山市が貯金を切り崩してセンター若しくは自校で建設した場合に、その借金は子ども達が背負うかもしれないというような現実もある中で、どうしていくのかという議論だと思います。完全給食を目指したいというのは共通の思いだと思いますが、それならそれがいつ実現するのかということがあります。先ほど財政行革室長の大澤委員が中長期的にみるとセンター方式がいいのではないかというご意見もありましたが、自校方式なのかセンター方式なのか最終目標を決めておいた方がいいかと思いますが、どうでしょうか。それとも、それは決めなくてよいですか。

【副委員長】

決めといたほうが良いとは思いますが、何年後にというのは絶対に言えないと思いますね。もう今は3年後こうしますというのも確約できない時代に入っているんですね。そここのところは非常に難しいので、方向だけは決めるけれども何年後にとは難しいかと。それから先ほどお母さんがいろいろ言われたようにその通りやなと思いました。これは我々の世代が悪いんですよ。なぜかという、今の70代、80代は自分たちは育ててもらったのに自分達の子どもは育てなかったんですよ、時間がなかった。私どもも女房もそうですが、朝から夜まで仕事しながら子どもはおばあちゃんのとこへ預けたりしていました。その流れは家庭料理で言うと、三重県は20年前に家庭料理は全部潰れるんですよ。覚える人がなくなる、じゃあ家で覚えてもらったらということそれもゼロなんですよ。だから全部断裂しとるんです。だから言われる通り献立作るのはみんな大変なんですよ。それならまかした方がいいとなるんです。だけど、子どもの立場がここにあって、この辺はここでも大事にしながら、そして次のお母さんたちのためにどうすんのかという考え方があってもいいんじゃないかなと思います。先般、名古屋の方で日本環境学会が開かれまして、久しぶりに出ていきました。今、幼児教育の食の部分も、環境教育の中ですごい議論がされてみえて、ここまで環境教育が発展しているんだと感じました。逆に言うと、途絶えたから今の30代、40代の人たちが築いてちゃんと勉強しよにという世代がぱっと増えてきた、そんな感じをそこで受けました。ずっと調査を続けてきて、やはり日本の文化は今戦後の70年間で途絶えてい

るような感じがします。理想はこうしろああしろというのは出てきておるんですけど、現実には各所で全部途絶えていて、それをもう1回教育の中にどう入れていくのかというのが大事な気がします。先ほどお話を聞きながら、20年前に三重県の家庭料理は全部潰れたなど、レシピ集はいっぱい出てくるけど、めちゃくちゃなレシピ集も出てくる。ついこないだ20年ぐらい続いとる三重県食文化研究会で三重県の食材辞典と三重県の郷土料理のレシピ集を作りました。今の人たちにどう伝えていくのか、伝えることを残すのというのを、この20年食文化研究会でやってきたわけです。三重県の途絶えたのをなんとかしていかないといけない、よそはみんなあるんですよ、10年前、15年前に出ておるんですが、三重県はなかったので私も事務局として取り組んだんです。お母さん方の話からいっぱい思うことができてきました。以上です。

【委員長】

ありがとうございました。食文化、食生活というのは重要だということでお話がありました。地域とのつながりとか、食を通じてのつながりを大事にすることとかも、実際にはもっと優先すべきではないかということがありました。学校給食をどうするかというのは各論で、亀山市の教育をどうするかというのは総論だとすると、今話し合っているのは各論なんですね。なので、総論がどうなのかという所も、併せて考えていっていただかないといけないということは思っています。本田委員から亀山市の総合計画、次の10年間というのができるお話でしたが、それはおそらく総論ということで、亀山市の子どもの教育全体をどうしていくかという中の位置づけで学校給食が一つの位置づけになると考えていかなければいけないと思うんです。ただこういう形で給食検討委員会というものが、これに特化した形のをここで持たせていただいているので、やはり結論は出さないといけないというところがあります。しかし、大川副委員長が言われたように何年後というのはやはり難しいですよ。ですが、最終的にこの委員会としては、やはり完全給食の自校方式を望みますというようなことは明記するというか、そこを目標にするけれども現在は様々なことを考えてメリットデメリットもあるだろうし、それでこれまでの改善の歴史をみてきても、子どもたちの反応や保護者の反応をみても今すぐに変えなくてはいけないということではないだろうというところなのかなとは思っているんです。ただ、現状であったとしても様々な問題点はありますし、継続して考えていくことであり、これで決まってしまうと思考停止

たいになってしまって、なにも考えなくてもいいということになってしまうのも、やはり食を考えていくうえではデメリットだろうと考えると現状維持のままですけれども継続して考えていく、そして、保護者さんたちが署名活動されたということもここで初めてお聞きしましたので、もう少しPTAの方たちに委員の中に入れていただいて、検討を続けていくというような工夫も必要かもしれません。ただ、優先順位としては、アレルギーの子ども達のこと、食育のことなどを優先した方がいいのではないかとのご意見もありました。せっかくみなさんから出していただいた意見を、あれはやめときましましょう、これはやめときましましょうと多数決で決めるということは、委員長としてはしたくないんです。なので、みなさんの意見が全部網羅されるような形で、まとめさせていただこうかなという風には思っているんですが、最終目標は自校方式の完全給食ではあるが、様々なことを考えると現状維持が望ましいのではないかと。現状維持だけでも、まだまだ改善していかなければいけないことがあるし、他に優先して手をつけなければいけないこともあるだろう、それはいったい何なのかということをはっきりと明らかにしていく。お弁当の日を作った方がよいとか、デリバリーをみんなに提供してもらった方がよいとか、地域の人たちと野菜を作りましょうとかいったことを提案していく、食事の素敵なルームを作りましょうとかそのようなことが出てきていますので、それを全部網羅してすべて共存させたものを事務局で作っていただいて、それを決定としていくというようなそういう方向性で考えていきたいんですけれども、これについてはみなさんいなかででしょうか。いや、それは困ると、結論を出した方がよいということであれば考えなければならないので、いかがですか。もうそろそろまとめに入りますので言いたいことがある方は言っていただいた方がよろしいかと思いますが。本田委員は何か、意見があるような感じですがいかがですか。

【本田委員】

先ほど、完全給食ならどちらがいいという問いも含めて発言してなかったので言います。自校方式です。思っていたのですが、委員の皆さんの意見を総括するような意見書を作るということでそれはいいのですが、自校方式は理想的であると。現状は今すぐ変えなければならない緊急性の高いものではなく、それよりもアレルギー対応など目の前のことを改善すべきだと。とても低い優先順位ということでもないですが。それと、乱暴な意見かもしれませんが、全員デリバリー給食となったらどんな意見が出てくるかな、そこは議論

されていなかったなと考えていました。どういうスパンでこういう会議を開くのかは分かりませんが、何年後かに必ず必要でしょうというのは意見書に入れていただきたいと思います。

【北崎委員】

不平等という言葉があったので発言しますが、給食の視点で見れば関地区は恵まれています。しかし、加太地区があります。無人駅から通っており、警報が出たり電車が止まれば、保護者は自分の意思で子どもと連絡をとったり、送ったり、代行バスに乗せたりしています。また、加太は保育園も小学校も校舎はかなり古いです。その中で子育てをしてきましたが、私は不平等だとは思っていません。バスの不便さもあります。与えられた状況の中で、地域の方と地域の中で考えてきました。子ども達は前から言います。関地区に生まれるときれいなアスレに行けるのに、なぜ加太地区だと古い建物なのと。だから、不平等という言葉は省いていただいて、給食とは子ども達のためにどうあるべきかという視点で書いていただきたいです。関中は給食だから亀中や中部とは不平等とは意見書に書かないでほしいです。

【委員長】

他に意見書に入れていただけたらという意見がありましたらお願いします。出た意見をまとめるということによろしいですか。

【副委員長】

出た意見をまとめるということで。民間は、センター方式で自校方式のやり方を導入したりしています。また、市が建てる時は、民間が建てるより 1.2 倍から 1.5 倍の費用がかかります。また、これから公務員または公務員に準じる人を増やしていくことは、他の教育費に使えるのではと思います。色々な思いで、自由記述を書きました。

【委員長】

今後、完全給食を検討するときに、自校やセンターを考えなければならぬと思いますが、文章の中にこういう意見が出たということで入れてください。事務局、うまくまとめてください。

他に意見はありませんか。

(意見なし)

それでは、ここで閉めさせていただきます。これで、本日の議事は終了いたしました。次回は、これまでの中学校給食に関する協議をもとに、第2次意見書案について協議をします。

それでは、これをもちまして第7回学校給食検討委員会を終了い

たします。最後に事務局、お願いします。

【教育次長】

本日は貴重なご意見ありがとうございました。皆様のご意見をもとに意見書案を作成しまして、次回10月下旬頃に委員会を開催する予定です。お気をつけてお帰りください。

- 了 -